

「新聞や取材活動を通して主体的に学ぶ子ども」～探究的な学びをめざして～

指定校 2 年次 茅野市立永明小学校 伊藤 悠悟

（１）本年度の N I E 活動の概要

本年度の全校研究テーマである「つむぎ合いながら、主体的に学ぶ子ども～『個別最適な学び』と『探究的な学び』の充実をめざして～」を受けて、NIE 部会では、新聞を活用する場面や方法を工夫することで、学びを自分事にさせることができれば探究的な学びにつなげることができるのではないかと考えている。NIE は「新聞記事を使った授業展開」を基本とし、写真・見出し・内容・カタカナ・地名など扱える内容は幅広い。「事実」と「考え」を区別して読み取ることで「読む力」を伸ばしたり、「学校と社会」「地域と人とのつながり」を意識した新聞活用で視野を広げたりすることが求められている。出前授業をしていただいたり、複数の新聞を購読（多い月では 8 紙）したり、信毎データベースを活用したりして、授業で活用したい新聞が身近なものになるようにしている。

（２）本年度の N I E 活動をはじめる前の状況

本校は全校児童 483 名、20 学級（内特別支援学級 5）である。昨年度から、小中学校施設一体型の新校舎での生活がスタートしている。特に、図書館を含めたメディアセンターは、小学生と中学生が共に利用することから広く、本の量も多く新聞コーナーも以前の校舎に比べ何紙も置くことが可能である。新聞を手にする児童も増えている。新聞は、職員用に一般紙 2 紙、児童用に 1 紙を購読している。また、以前から実施していた学校司書による新聞クイズコーナーも継続して行っている。

研究授業を行う 5 年 2 部では、その日の当番が自分の気になる記事をスクラップして、「記事を選んだ理由」や「それに対する自分の考え」などを紹介する活動を行おうと考えている。昨年度信濃毎日新聞社による出前授業を受けたこともあり、新聞に興味を示し、朝や休み時間に廊下に置いている新聞を進んで読む児童の姿も見られる。また、ICT にも慣れてきている児童が多いため、「シンマイ E G G」を活用しながら多くの記事にふれる活動を進めていきたいと考えている。

（３）N I E 活動の狙い（育てたい力）

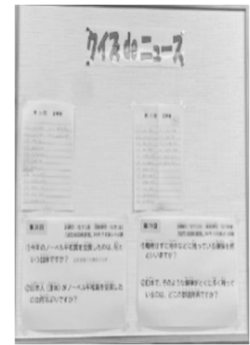
「事実」と「考え」を区別して読み取ることで「読む力」を伸ばしたり、地域面や社会面などの記事を読み取ることで「学校と社会」「地域と人とのつながり」を意識したりしながら、主体的に学習に取り組めるようにする。

また、5 W 1 H（「When：いつ」、「Where：どこで」、「Who：だれが」、「What：何を」「Why：なぜ」「How：どのように」）を意識して記事の大まかな内容を正しく読み取ったり、それに対する自分の考えを述べたりできるようにする。

(4) 公開授業以外のN I Eの取り組みの状況

① メディアセンターでの活用

新聞を置き、児童生徒が新聞に親しむ機会を多くしている。また新聞クイズコーナーを設け、楽しみながら新聞を読む機会を増やしている。9月以降は、多い時には毎日8紙の新聞が届けられる予定で、読み比べをすることができるようにしていく。



② 教室での活用

5年生の教室前に新聞台を設置し、図書館でなくても新聞を自由に閲覧できる機会を増やしている。



③ 授業等での取り組み

▽信濃毎日新聞社による出前授業

- ・総合的な学習の時間で「茅野市の良さをPRしたい」という願いをもって活動している児童が、地域の方々に話を聞きに行く前に「取材の仕方」を学習した(5年1部)。
- ・社会「情報産業とわたしたちの暮らし」の単元で、記者になったつもりで家族の職業について取材し、その内容を新聞形式でまとめた(5年1部)。
- ・国語「新聞を読もう」の単元で、気になる記事をスクラップしながら記事の内容について話し合い、「新聞の読み方」を学習した(5年2部)。

▽児童会活動や学級活動での取り組み

- ・放送委員会の活動の一つであるアナウンス練習を、信濃毎日新聞の「建設標 10代」の文章で行っている。
- ・その日の当番が気になる記事をスクラップし、「記事を選んだ理由」と「それに対する自分の考え」をクラスに紹介している(5年2部)。
- ・寺子屋タイムにクラスみんなで新聞を読み、興味のある記事について紹介し合ったり、発表し合ったりしている(4年2部)。



(5) 公開授業などの活動内容

第5学年 国語 5年2部 32名 伊藤悠悟教諭

「新聞を読もう」「文章に説得力をもたせるには」

① 単元展開と評価

学習活動	教師の支援（・） □学習問題	○評価	時
1 新聞の中から自分が興味をもった記事の一つを選び、5W1Hで内容をまとめる。	<p>新聞の文章はどのように読みやすく工夫されているだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートと付箋を活用し、選んだ記事を5W1Hでまとめる。気になったことや自分の考えも区別して書くようにする。 ・授業の最後に意見文を書くために必要な文章の構成として、「主張」「根拠」「予想される反論」「反論に対する答え」があることをおさえて、次時につなげる。 	<p>○新聞記事の内容を5W1Hの観点でまとめ、自分の意見と事実を分けて文章にすることができたか。</p> <p>(B書くこと,ウ)</p>	1
2 自分の選んだ新聞記事から自分の主張・根拠を見つける。	<p>自分の選んだ新聞記事から考えたことを文章にするためにはどうすればよいのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事に対する自分の主張とそう思った根拠を見つけて付箋に書くことで、自分が選んだ記事に対する考えを整理しやすくする。 ・主張と根拠の付箋はそれぞれ色分けして、区別しやすくする。 	<p>○新聞記事の内容から自分の主張とその根拠を見つけて、考えを簡潔に文章にすることができたか。</p> <p>(B書くこと,ア)</p>	2
3 友達の主張に対する反論を書いた付箋を使って、その反論に対する答えを考える。(本時)	<p>自分の主張により説得力をもたせられるようにしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張に対する反論を第三者である友達の意見から得ることで、反論を出しやすくする。 	<p>○友達の意見から視野を広げ、自分の考えを見直すことができる。</p> <p>(C,読むこと,オ)</p>	3
4 反論に対する答えの根拠になる資料を探して答えを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・シンマイEGGの検索機能を活用して、反論に対する答えに必要な資料を探しやすくする。 ・付箋を活用して学習シートに貼ってまとめることで、自分の考えを整理しやすくする。 	<p>○反論に対する答えとなる根拠として適切な資料を調べて、必要な情報を整理することができたか。</p> <p>(B,書くこと,エ)</p>	4
5 学習シートを見て、自分の選んだ記事についての意見文を書く。	<p>説得力のある意見文はどんな文章の構成になっているだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートを活用することで、意見文の構成の順番に沿って文章を書くことができるようにする。 	<p>○学習シートを見ながら自分の考えを整理して、筋道の通った文章の構成を考えることができたか。</p> <p>(B,書くこと,イ)</p>	5

<p>6 意見文を読みあって文章を再構成する。</p>	<p>自分の書いた文章は本当に筋道の通った文章になっているだろうか？</p> <p>・友達の意見が書かれた付箋を活用して、自分の文章を見直すことができるようにする。</p>	<p>○自分の作った文章が客観的な視点から筋道の通った文章であったかを見直し、文章全体の構成や展開を考えることができたか。</p> <p>(B, 書くこと, オ)</p>	<p>6</p>
-----------------------------	--	---	----------

5年2部の活動の様子(新聞活用に関して)

その日の当番が自分の気になる記事をスクラップして、「記事を選んだ理由」「それに対する自分の考え」を紹介する活動を行っている。9月1日(月)に紹介したKさんは、その日が防災の日であることにちなんで防災に関する記事を選んだ。「自分の考え」のところでは、「日頃の防災に関する備えを見直していきたい」と発表し、防災意識の見直しをクラスに呼びかける姿があった。

9月17日(水)に紹介したYさんは、国語の授業で「たずねびと」を学んでいることから原爆に興味をもち、上田で開催された原爆のアート作品の展覧会の記事を選んだ。「自分の考え」のところでは、「きのこ雲の絵から当時の原爆の規模が想像できた」と発表し、原爆に対する自身の思いをクラスに伝える姿があった。



② 本時の主眼

自分が興味のある新聞記事から考えたことを整理した子どもたちが、自分の主張により説得力をもたせる文章を考える場面で、友達の主張に対する反論を書いた付箋を使って、その反論に対する答えを考える活動を通して、友達の意見から視野を広げ、自分の考えを見直すことができる。

③ 本時の展開

段階	学習活動	◎予想される生徒の反応	・教師の支援 評価	時
導入	1 本時の学習問題を確認する。 【全体】	◎前回は記事から自分の主張と根拠を整理したね。 ◎意見文にはなりそうだけど、説得力をもたせるなら予想される反論と反論に対する答えが必要だね。	・前時の活動を振り返り、予想される反論とそれに対する答えを文章に入れることの必要性から学習問題を見出す。	5
	学習問題：自分の主張により説得力をもたせられるようにしましょう！			
	2 反論を考えやすくするための意見を出し合い、学習課題を設定する。 【全体】	◎まず反論を出さないといけないなあ。 ◎友達同士で反論を出し合ってみるのはどう？ ◎反論は、主張がどの視点から考えているかを整理すると、違う視点から意見が出せそうだね。		5
学習課題：友達の主張に対する反論を書いた付箋を使って、反論に対する答えを考えよう		◎反論が出そろったら、その答えも考えてみよう。 ◎反論を言い返すには、また根拠がいるかもね。	・第三者の視点から自分の主張を考えられるように促すことで、本時の学習の見通しがもてるようにする。 ・反論を出すポイントを確認し、活動をスムーズに行えるようにする。	
追究	3 友達の主張に対する反論を付箋に書いて伝える。 【グループ】	◎諏訪湖をきれいにするためには、自分のごみの分別やリサイクルの活動を行って、校外にその活動を発信することが大切。(主張) ◎直接諏訪湖をきれいにはしているわけではないから、すぐに解決する問題ではないね。(反論)	・自分の主張に対する反論を第三者である友達の意見から得ることで、反論を出しやすくする。	15
	4 自分の主張に対する反論への答えを考える。 【個人・グループ】	◎この反論に対する答えって何だろう？ ◎諏訪湖周辺でごみを分別できる人が増えていることを示すことができればいいよね。 ◎諏訪湖のごみ拾い活動って今までもやっている気がするよ。 ◎諏訪湖のごみ拾い活動をしている記事がないか「シンマイEGG」で探してみよう！（根拠となる資料）	・反論に対する答えがすぐに出てこない人は、「自分の主張に説得力をもたせるには何が必要だった？」と尋ね、反論の根拠も資料が必要であることに目を向けられるようにする。	10

終末	5 活動の振り返りを行い、次時につなげる。 【個人・全体】	◎友達から諏訪湖を直接きれいに行っているわけではないと言われて、自分の主張は長い目で諏訪湖をきれいにする活動であることに気づいた。諏訪湖のごみ拾い活動の記事を探して、主張にさらなる説得力をもたせたい。	自分の主張に対して友達から反論をもらうことで、視野を広げ、自分の考えを見直すことができる。	10
----	----------------------------------	--	---	----

④ NIE の視点

自分で選んだ新聞記事を使い、5W1Hを明確にして内容を整理する。

(6) 1年間取り組んだ成果と課題

○成果

子どもたちが自分で記事を選んだことで、学びに対する「自分ごと」としての主体性が生まれ、自分の考えを言葉にする意欲につながった。特に子ども新聞の活用や、これまでの出前授業、スクラップ作りといった積み重ねが、新聞に親しむ土台となった。社会科で学んだ知識を根拠に語る場面も見られ、新聞を通して社会への視野を広げる確かなきっかけとなっている。

また、付箋を使った活動は、書くことへの抵抗感をやわらげたり、根拠を一つ一つ書くスタイルで考えを整理したりする上で効果的であった。新聞記事や友だちの考えに積極的にふれながら、粘り強く取り組むことができた児童が多かった。

●課題

記事選びの段階で、より細やかな支援が必要であった。生活に馴染みの薄い政治や戦争などのテーマは、知識不足から考えを深めるのが難しい面がある。今後は、児童の興味や既習事項に合わせ、こちらでいくつか記事を準備しておく工夫も検討したい。

また「反論」を意識するあまり、相手を否定することに終始してしまった点は大きな反省点である。本来の目的は「自分の考えを広げること」であり、反論だけでなく共感も含めた自由な対話の時間を大切にすべきであった。今後は、教員自身も子どもと同じ活動を事前に行うなどして教材研究を深め、文章構成の指導やゴールのイメージ共有をより丁寧に行いたい。



また「反論」を意識するあまり、相手を否定することに終始してしまった点は大きな反省点である。本来の目的は「自分の考えを広げること」であり、反論だけでなく共感も含めた自由な対話の時間を大切にすべきであった。今後は、教員自身も子どもと同じ活動を事前に行うなどして教材研究を深め、文章構成の指導やゴールのイメージ共有をより丁寧に行いたい。